



# 東村山市子ども読書活動推進計画

第2次（平成22年度～26年度）

進捗状況報告8 『きょういく東村山』より

## 『いのちの大切さを伝える取組』



### 「いのちの教育」推進プラン

市立図書館では、「いのちの教育」推進プランの一環として、また「いのちとところの人権の森宣言」の趣旨を踏まえ、当計画においても本を通して子どもたちにいのちの大切さを伝える取組をしています。

### いのちの大切さを伝える本

いのちの大切さを伝える作品はたくさんあります。自宅出産の感動を描いた写真絵本『うちにあかちゃんがうまれるの』（いとうえみこ文 ポプラ社）、最期を迎えるおばあさんと家族の日々を綴る『さよならエルマおばあさん』（大塚敦子写真・文小学館）、ずっとのけものにされてきた男の子の存在の大切さに気付く『からすたろう』（やしまたろう文・絵 偕成社）。

どらやき屋の青年とハンセン病回復者との交流が心に響く『あん』（ドリアン助川著 ポプラ社）は、青葉町の全生園と思われる場所が登場します。

### ブックリストやブックトークで紹介

ぜひ子どもたちに手に取ってほしいと考え、毎年2月の「いのちとところの教育週間」には様々な切り口でいのちの大切さを伝えるブックリストを作成し、関連図書のコーナーを作ります。市立小・中学校図書館にも「いのちとところの本」コーナーが設置されており、人権学習の一助となっています。

また、図書館職員が小学校を訪問し、「かがやけいのち」や「うまれる」というテーマでブックトーク（本の紹介）をすることもあります。

### 紙芝居で伝える

図書館関連団体の紙芝居サークル「原っぱ」の皆さんは、小学校、中学校、高校にいのちや平和をテーマにした紙芝居の出前をしています。熱のこもった上演に涙する子もおり、「紙芝居でこんなに感動するとは思わなかった」という感想が届けられるそうです。

今後も、市民の皆さんと一緒に子どもたちの心に残る本や紙芝居を提供していきたいと思えます。

『きょういく東村山』第69号より

平成25年12月15日号

編集・発行 東村山市教育委員会